

山中湖文学の森 三島由紀夫文学館・山中湖村教育委員会主催

三島由紀夫文学館 第14回レイクサロン

演題

『ペルソナ 三島由紀夫伝』で
描きたかった
三島由紀夫の素顔

猪瀬直樹
特別講演

2018.10.21 SUN

13:30~16:30頃
12:30より受付開始

会場：徳富蘇峰館 視聴覚室
(三島由紀夫文学館 隣接)

参加費：1,000円

Naoki
Inose



◆申込方法

電子メール・FAX・往復ハガキのいずれかで、お申し込みください。
お申し込みの際には、①ご住所②お名前③電話・FAX番号を必ず明記してください。
複数名でお申し込みの場合もそれぞれの①②③の明記をお願い致します。
*受付は先着順。定員になり次第、締め切らせていただきます。
*お申し込みには必ず返信致しますので、4日以上（往復ハガキの場合は、7日以上）
経っても返信がない場合は、お手数ですが再度お問い合わせください。
*人数に余裕がある場合は、当日参加も可能です。

◆締切日

2018年10月20日（土）（往復ハガキの場合は10月13日必着）

お問い合わせ・お申し込み

山中湖文学の森 三島由紀夫文学館

〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 506-296

TEL 0555-20-2655 FAX 0555-20-2656

E-Mail info@mishimayukio.jp <http://www.mishimayukio.jp>



—特別講演—

『ペルソナ 三島由紀夫伝』で描きたかった三島由紀夫の素顔

日本の文学史がなぜ無味乾燥に陥りやすいか、と考えていちばんに気づくのは舞台の設定の仕方が狭いから、ということなのだろう。純文学と称されるものの系譜を中心に稜線を辿るかたちで、いつごろからかある固定観念ができあがって、以降それをなぞる体のテキストがつけられた。粘土細工でつけられた歴史はく^{いま}呼吸していない。僕は仮死状態におかれている三島由紀夫を土中から救い出してあげたい、と思った。作品の中に残されて無数のメッセージを読み解かなければ魂が浮かばれないではないか。三島は意識の人だが、その意識のなかにも無意識の層が沈んでいるはずだ。そこに宿命性を帯びたく日本の近代が横たわっているに違いないのである。

(『ペルソナ 三島由紀夫伝』(文春文庫)・『日本の近代 猪瀬直樹著作集 第2巻』文庫版へのあとがきより)



特別講師 猪瀬 直樹 - Naoki Inose -

1946年長野県生まれ。
87年『ミカドの肖像』で第18回大宅壮一ノンフィクション賞、
2002年小泉首相より道路公団民営化委員に任命される。
東京大学客員教授、東京工業大学特任教授など歴任。
2007年東京都副知事に、12年から13年、東京都知事。
2015年より大阪府市特別顧問、一般財団法人・日本文明研究所所長。
著書に『ペルソナ 三島由紀夫伝』『ピカレスク 太宰治伝』(文春文庫)
『昭和16年夏の敗戦』『天皇の影法師』(中公文庫)
『猪瀬直樹著作集 日本の近代』(12巻・小学館)。
近著に『救出 3・11気仙沼に取り残された446人』(河出書房新社)
『民警』(扶桑社)、『東京の敵』(角川新書)、
三浦瑠麗との共著『国民国家のリアリズム』(角川新書)、
磯田道史との共著『明治維新で変わらなかった日本の核心』(PHP新書)、
蜷川有紀との共著『ここから始まる 人生100年時代の男と女』(集英社)、
田原総一郎との共著『平成の重大事件 日本はどこで失敗したのか』(朝日新書)。

—プログラム—

- 12:30～ 受付開始
- 13:30～ 山中湖村村長挨拶
三島由紀夫文学館館長挨拶
- 13:45～15:15 講演
- 15:15～ 休憩
- 15:30 質疑応答
パネルディスカッション
- 16:30頃 山中湖村教育長挨拶
終了予定

—レイクサロンとは—

三島由紀夫の「研究と普及」を基本理念に掲げ、三島文学の魅力を語り合う場として毎年開催し、多くの著名人を講師に迎え、今年で14回目になります。講演とフリートークを中心に、時間が経つのも忘れて、三島について論じ合い、出会いと楽しいひとときを共有しませんか。あなたも三島文学の知られざる一面を垣間見ることができるかもしれません。

—パネルディスカッション—

- 佐藤 秀明 — 近畿大学教授・三島由紀夫文学館館長 —
- 井上 隆史 — 白百合女子大学教授・三島由紀夫文学館研究員 —
- 山中 剛史 — 日本大学非常勤講師・三島由紀夫文学館研究員 —